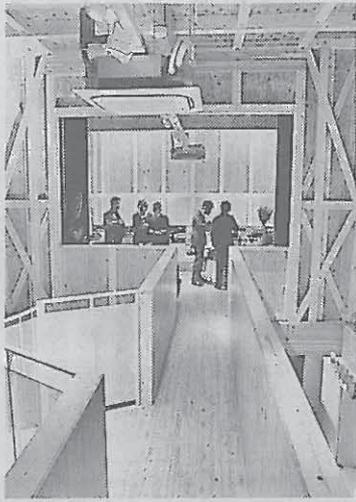


街のランドマークに

札幌ワシダ新社屋が完成

スタジオシンフォニカ（本社・札幌）の畠中秀幸代表が設計した、中古車販売会社・札幌ワシダ（同）の新社屋が完成した。15日の竣工式には畠中氏のほか、学生向けのロゴコンペを企画したCラス張りにすることで、AI現代芸術研究所（札幌）の端聡代表ら関係者が多数出席。街の新しいランドマークとなるよう、社業の未永い発展を祈念した。

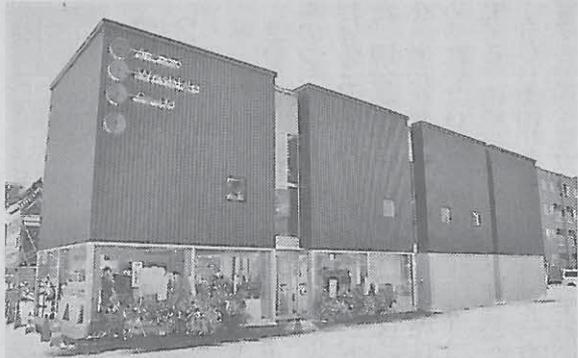


来店客の創造を促す空間

豊平3条6丁目の国道36号沿いに建設。特徴は黄金比（長方形が最も美しく見える縦横の比率）を意識したデザイン。1辺5・8材の立方体4個で構成し、それぞれを結ぶ渡り廊下や1階部分をガラス張りにすることで、4つの箱が浮び上がる印象を与える。

1階はラームン、2階は壁式と、上下で違う構造を採っていることも独特。都市構造研究所（本社・札幌）の平出寛社長に協力を仰いだ。内装は「完成していない」がコンセプト。使用する木材や空調機をあらわにすることで、訪れる人の新しい創造を促そうという試みだ。

竣工式で、札幌ワシダの驚田和彦社長は「車の社屋を飾るロゴコンペの表彰式も開かれ、最優秀賞の高田広隆さん（札幌市立大3年生）に賞金が手渡された。審査員を務めた端代表は「創造は建物や芸術作品と、それを見る人の中間に生まれる。新社屋は、そうした創造を発信できる場所になる」と話した。



4つの箱が国道36号沿いに映える

北海道建設新聞掲載記事(12/17)

短信

◇学生対象のロゴマークコンペ結果 札幌市豊平区の中古車販売会社「札幌ワシダ」が新社屋建築を機に、学生を対象にしたロゴマークのコンペを行い、札幌市立大3年の高田広隆さんが



最優秀賞を受賞した。高田さんのロゴは車輪やブレーキパッドを連想させる円を巧みに配し、オレンジ色を使い温もりを出した。ロゴは4棟が連なる新社屋の左上に取り付けられた「写真」。

コンペを企画し、新社屋の設計を手掛けた畠中秀幸さんは「デザイナー志望の学生は就職も厳しい中、モチベーションが高まる。第2弾、第3弾を仕掛けていきたい」と話している。

◇八木さん夫妻の基金で全道展ピンバッジ 昨年2、3月に相次いで止くな

全道展関係者以外の希望者は、80円切手同封で高橋均さん宛て（〒063・0

北海道新聞夕刊掲載記事(12/19)